

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292100078		
法人名	株式会社ヘルスケアナラシノ		
事業所名	グループホーム大久保		
所在地	千葉県習志野市屋敷3-1-12		
自己評価作成日	平成26年3月5日	評価結果市町村受理日	平成26年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年3月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝には朝日を受け輝いている富士山、夕方には夕陽を浴び赤く染まった富士山を、はるかかなたにくっきりと望む事が出来る4階に位置しています。天気の良い日には入居者の方々が、手を合わせている光景がよく見られます。ホームは真ん中に幅1.6M長さ約16Mの廊下を配いているので入居者の方々の下肢筋力強化のリハビリに役立っています。入居者の方々は車椅子の方が多いため出かける時には少し大変ですが、みなさん出かけるのが好きなので出来るだけ行かれる様にしています。リビングに集まっている時には朝の体操の他カラオケやDVDの鑑賞又、レクを楽しんでいます。力を入れている点としては、自分で出来る事は出来るだけ自分でやってみましょうという事で、入居者の方々の隠れている能力を引き出して頂く様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは母体法人が経営する複合施設の4階にあり、他の事業所と連携しながら運営されている。管理者は、ホームの優れている点として「利用者」と職員との「仲の良さ」と「入居者を安心して任せてもらっていること」を挙げている。当該評価の家族アンケートからもホームに対する信頼感がうかがえる。「自分の出来る事を見つけよう・そして続けて行きましょう」という理念の実践に努めており、洗濯物たたみを続けることや、買い物に行った時に自分で支払いができるような支援をしている。外出も大切にしており、できるだけ近隣に散歩に出たり、季節の花見には、お弁当を手づくりして家族と一緒に楽しんでいる。就寝時間や買い物など、自己決定や個別の支援ができるように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員で話し合っ作られた理念の基、職員入居者の方々にも、実践頂いている。	ホームの理念は、「自分の出来る事を見つけよう・そして続けて行きましょう」である。洗濯物たみまを続けることや、買い物に行った時に自分で支払いができるように支援している。難しい時は、手伝いながら利用者自身ができるように促すなど、理念を実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公園内の掃除、夏祭りへの参加、町内会に加入等地域の一員として日常的に交流しており又回覧板を回してもらい地域で実施している事を把握している。	地域住民や医師などが参加して2か月ごとに開催される地域のケア会議で、ホームは認知症の事例発表などを行っている。また、法人が毎年行なう地域に向けた夏祭りには、多くの近隣住人の参加があり、喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に於けるイベントへ入居者共々参加し地域の方々グループホームとはどういふ方々が入居されているのかを理解して貰える様努力している。又、地域の方々と気軽に交流できればとも望んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で議論された問題点に対応することによりサービス向上に努めている。	2か月に1回開催している。議題は、現状報告・報告事項・回毎のテーマから成っている。「ターミナルケア」や「看取り」「延命」に関することなどの話し合いも行われ、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会であるので、構成メンバーに地域住人の参加が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の介護サービス向上連絡会や包括支援センター主催の会議には出席しており事業所の実情やケアサービスの取り組み等をも伝える機会を作っている。	市が主宰する事業所連絡会や地域包括支援センターが開催する会議に出席し、情報を交換している。ホームの問題を提議し、解決策を話し合う事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が外部、内部いずれかの研修を受けており身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	利用者の状態を良く観察し、アイデアや代替えの方法を職員間で検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束をなくすため「不適切な言葉」の使用を注意し合える体制作りを今年度の目標としている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待防止関連法について研修を受け言葉の虐待を始めケアの中でもそれに値する様な行為がないかお互いに注意を払う様にしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用していた入居者がいた事で学ぶ機会を持つことができた。これからも活用に向けて役立てたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたって利用者や家族の不安や疑問に感じている事をできるだけ聞き出せる様配慮し十分な説明をし、家族共々安心して入居して頂ける様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に2回の家族会の開催を厳守し意見や要望を聴く事ができる様にしている。その他では面会時に常時要望や意見を聞くことができる様にし、それらの意見を職員で話し合い運営に反映させている。	小規模なグループホームであるが、家族会を設置し定期的な話し合いができるように努めている。運営推進会議には、家族に出席してもらい運営に関する意見交換を行なっている。来訪時にも意見・要望を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会等で職員の意見や提案を述べる機会を設けている。又ホーム会議や申し送りの際等、常時職員が意見や提案を発言できる状態にあり運営に関して反映させている。	ホーム会議(全体会議)で定期的にケアカンファレンスを行い、看護師の出席も得て医療的な問題も解決できるように検討し、運営に反映している。法人が主催する定例会は、法人全体の職員を対象としており、意見や提案を述べることのできる機会になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいが出る様な職場環境を作り、向上心を持って働ける様条件の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの持てる力を把握し、研修を受ける機会やレベルアップに向けての技術向上を図っていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の介護サービス向上連絡会や包括支援センター主催の会議に出席の際、同業者と交流する機会を作っており、他事業所の取り組み方を把握サービスの質の向上に役立てている。又、介護相談員の訪問時にも情報収集している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	住み慣れた家を離れるだけでも相当の覚悟が必要にも拘らず、家族と離れて入居しなければならないという事に大変不安を感じていると思われる。まずこのホームが安心して生活できる所だという事を分かって貰える様努める		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族の葛藤を考え、家族が困っている事、不安に感じている事、要望等できるだけ細かく聞き出せる様、信頼できる関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず本人、家族双方が必要としている支援を見極める。又その他のサービスをも含め対応できる様努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と家族の関係は暮らしを共にする者同士として洗濯物をたたんだりテーブル拭き等、自然と軽作業を手伝う家族の様な関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切に家族と共に支援して行く様に対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力して貰いながらこれ迄大切にしてきた人やいつも行っていた場所等に行く事ができる様に支援していく。	入居前から本人が大切にしてきた人や場所との継続支援に努めている。病院・美容室・行きつけの喫茶店で友人と会話を楽しむことなどを家族と連携しながら支援している。遠方から訪ねてくる家族がホームに宿泊することもあり、他の利用者との交流も楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握しどうしても交われない方同士を同じテーブルにしない、又必ず見守りをする等、他利用者との関係にも配慮し孤立する事なく過ごせる様、支援する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居される迄の生活環境を把握しその方の意向や希望を受け入れる事が出来る様努める。	家族や関係者から情報を聞き、日々の生活の中から本人のやりたいことや意向をくみ取るよう努めている。意思疎通が難しい利用者については、家族から話を聞いたり、表情などからくみ取るよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握	入居前の生活環境の把握をし今までに近い環境の基で過ごす事が出来る様に努める。又サービス利用の経過等を知ることによって今までの本人の生活に近い過ごし方をしてもらうことが出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後の様子を観察し心身状態、出来ること等を見極めその方にふさわしい過ごし方が出来る様に努める。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が入居者の方々の情報を共有して、一人ひとりのケアのあり方について検討し、より良い介護計画を作成し実践出来る様に努めている。	ホーム会議でケアカンファレンスを行い、朝礼や夕礼では、職員から出たアイデアや気づいたことを話し合っている。また、家族の来訪時に意見や意向を聞き、看護師と連携してケアプランにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別毎の記録の作成、バイタルチェック、その日の様子観察、水分、食事量の把握等細かく記載し日勤、夜勤共に共有している。特変時等に於いても記録を参考に見直しにも役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせる事が出来る様、出来る限りサービスの多機能化の対応に取り組める様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に依って豊かで安全な暮らしを楽しむ事が出来る様支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前、受診していた病院との関係を大切にし協力医、家族、ホームとの情報の共有を図り納得のいく医療を受けられる様支援している。	馴染みの医師による継続的な医療が受けられるよう支援している。病院受診は家族対応になっており、そこでの情報はホームと十分に共有されている。月に一度の協力医による往診や入院施設がある協力病院と提携しているなど、安心できる医療環境にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には常時、情報や気づきを伝え迅速に対応出来る様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるよう又早期に退院できるよう入院時介護サマリー、退院時看護サマリーにて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について事業所で出来ることを本人、家族に十分に説明し話し合いを行いながら方針を共有している。利用者の状況に応じその都度話し合いを行い対応している。看取りを経験しており、このことを活かしケアの質の向上を目指している	職員全員がターミナルケアを経験しており、本人家族にとって大事な時期だと認識している。入所時に書類で家族に説明しており、医師や看護師と連携しながら、状況の変化に応じて家族などと話し合いをして支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は利用者の急変や事故発生に備えて応急手当や初期対応の訓練を看護師指導のもと定期的に行い実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者、職員全員参加して避難訓練を6ヶ月月に行い避難誘導、初期消火等安全に対応出来る様に訓練を実施している。居室の表札に搬送方法を掲示しており、地域には災害時の協力をお願いしている。	年2回、消防署と昼間想定全体の訓練を実施している。職員が消防署に出向き、災害時の避難経路の確認などについてアドバイスをもらっている。また夜間緊急時の誘導方法を明文化し、情報を共有している。	今後は夜間など、さまざまな場面を想定した訓練の実施と地域との協力体制構築などが期待される。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや行動に配慮した対応をしている。	利用者への言葉かけは日頃から職員間で話し合い、質の向上につなげている。ホーム会議の中で接遇の話が議題にあがることもあり、一人ひとりを尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自分の思いや希望を話せる様な雰囲気を作り自己決定出来る様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、ホームの決まりや都合を押し付けるのではなくその日をどのように過ごしたいか、希望に添って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の衣服を自分で選び身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食を楽しむ機会を設けたり、入居者と職員で入居者の好きな物を作り喜ばれている。又利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しいものになるよう、広告を見ながら外食に行く店を決めたり、日曜日の昼食にたこ焼きやお好み焼きをみんなでつくるなど工夫している。また、食べられないものがあれば別のものを提供するなど個別に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通じて一人ひとりの食事、水分摂取量の記録をしており入居者の状態や、習慣に応じた支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを行い自立の方には、声掛けにて、できない方には職員が行い一人ひとりの口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターン、習慣を把握しその方に合わせた自立を支援している。	排泄チェック表に基き、職員が時間で誘導している。特に昼間はトイレでの排泄を心がけており、リハビリパンツやパッドを使用しながら自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫や毎日の体操、散歩等、運動への働きを行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は、決めてあるが、一人ひとりの体調や希望でいつでも入浴出来る様に支援している。	入浴はできるだけ好きな時間に入れるように支援している。入浴時には職員が利用者の心身状況をみながら、できることはなるべくやってもらうように声をかけるとともに、コミュニケーションを取る時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンが違うので、その時々状況に応じて対応している。体操やレク等で身体を動かして安眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、一人ひとりの薬の目的や用法、用量について理解しており、服薬に関してもしっかりと飲めたかその後症状の変化がないか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、自己の力を活かした役割を果たす事により張り合いや楽しい日々を過ごせる様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩買い物はいつでも対応出来る環境にある。季節毎に初詣、お花見、バラ園散策等戸外に出かけられるよう支援に努めている。又夏には、地域や本社の祭りに参加している。	初詣や花見などの年間行事の他、一対一でコンビニに買い物に行くこともあり、利用者が品物を選び支払いをするまでの過程を含め支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望に応じてお金を所持し買い物に行った際自分で支払いができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に応じていつでも家族に電話できるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下のボードにはレクや外出時の写真を貼り利用者やご家族に見ていただいている。リビング、廊下は、明るく適温に保たれている。季節毎の花を飾るなど居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下には利用者の外出時の写真が飾られ家族にも喜ばれている。また、リビングには花を飾るなど、季節感を大切にしている。共用空間は利用者が習字やトランプ、カラオケなどを楽しむ場所でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの席は出来るだけ気のあった利用者同士同じテーブルになる様にしている。又、話の中に入れない方が孤立しないよう職員が配慮し一人ひとりが心地よく過ごせる様に工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで家で使用していた家具やアルバム等本人がホームにいても家にいた時と同じ様な雰囲気を作り居心地よく過ごせる様工夫している。	居室に使い慣れたイスやテーブルを持ち込み読書やお茶を楽しむ、家族が手づくりした布張りのついたてを置くなど、自宅と同じように過ごせる時間が持てるよう支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口に色分けしたプレートを貼り目印としている。トイレ、洗面所などわかりやすい様にしてあり廊下や各場所に手すりをつける事で安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所